

令和3年度 全国学力学習状況調査の結果

昨年度はコロナの影響で中止になりました全国学力・学習状況調査が今年度は5月27日に実施されました。調査結果につきましては、すでに個人票を配付しておりますが、こちらは6年生全体の傾向としてのお知らせになります。長期休みの際の学習資料として、また中学校に向けての振り返りの際の参考資料として活用いただければと考えております。全国・全道平均と本校の児童の結果を比較しながら分析いたしております。9月にお渡しした「個人票」と合わせてご覧ください。また、生活習慣や学習環境等に関する児童への質問紙調査についての傾向もお知らせします。

教科に関する調査・質問紙調査から見られる6年生の傾向と授業改善

(1) 国語

< 特によくできていた問題 >

- ① 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考慮することができるかどうかをみる問題。
- ② 資料を用いた目的を理解することができるかどうかをみる問題。
- ③ 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題。
- ④ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる問題。
- ⑤ 文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題。

< 課題の見られた問題 >

- ⑥ 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考慮することができるかどうかをみる問題。
- ⑦ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。

< 分析 >

国語の、平均正答率は全国・全道平均を大きく上回る結果となっています。領域別に細かく見ていきますと、「話すこと・聞くこと」(①②)、「読むこと」(③④)において、特によい結果となっています。

一方、課題となりました領域は「書くこと」⑥と「知識・技能」⑦です。全国・全道平均より下回る結果となりました。

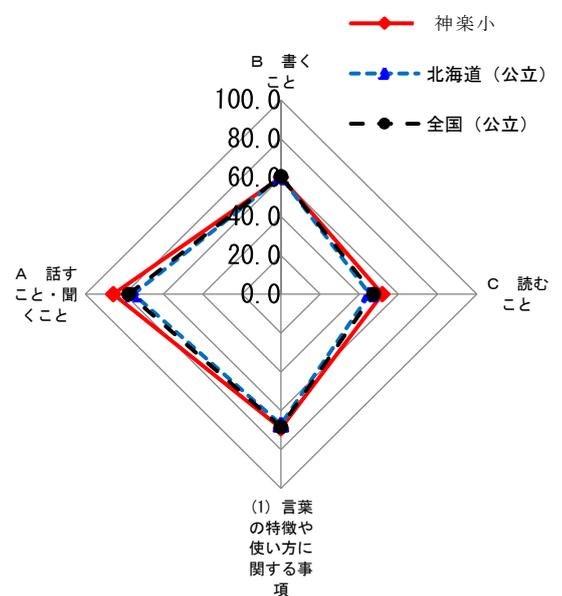
「書くこと」⑥については記述式の問題ではなく文章全体の構成についての問いであり、選択式の問題形式でした。「読むこと」の力が身に付いている児童が多い6年生にとっては、比較的簡単な問題ではありましたが。誤答した児童の多くが選んだ選択肢の文章を読みますと、正答と思われる内容の文もありますが、明らかに違う文が含まれておりました。間違えの要因はしっかりと問題を読まなかったところにあると考えられます。

「知識・技能」⑦については、漢字の書き取りの問題で、3問のうち2問が全道の平均を下回りました。漢字の書き取りに課題が残る結果となっています。

< 改善 >

落ち着いて文章を読んで問題を解くこと、また文章にまとめたり、書き表したりする表現活動の際に既習の漢字をできるだけ活用して書くという指導について見直します。

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



(2) 算数

<特によくできていた問題>

- ①二つのコースの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できるかどうかをみる問題。
- ②速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができるかどうかをみる問題。
- ③条件に合う時刻を求めることができるかどうかをみる問題。
- ④複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題。
- ⑤棒グラフから、数量を読み取ることができるかどうかをみる問題。

<課題の見られた問題>

- ⑥三角形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる問題。
- ⑦帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題。
- ⑧集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができるかどうかをみる問題。
- ⑨示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるかどうかをみる問題。
- ⑩商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができるかどうかをみる問題。

<分析>

算数の平均正答率は全道平均を上回りましたが、全国平均には少し及びませんでした。領域別にみますと「測定」(①③)と「変化の関係」②、「図形」④、「データの活用」⑤は全国・全道平均を超えています。しかし、「データの活用」⑦の必要なデータから割合を求める問題、「データの活用」⑧の目的にあったデータを選ぶ問題、更に上記以外の問題の結果から、領域別平均として「データの活用」は全国・全道を下回りました。また、「図形」についても平行四辺形の面積を求める問題はできて、直角三角形の面積を求める問題はできなかった児童も多いなど、単純に領域別で得意・不得意を判断できる結果とはなっていません。「数と計算」⑩は全国的にも正答率の低い「単位量あたりの大きさ」の問題ですが、安易に「大きい数」÷「小さい数」と立式してしまった児童が多くみられました。

問題形式でみると、例年の課題となっていました言葉や式を用いて記述する（説明する）回答の正答率が国語・算数共に高く、記述式への苦手意識はかなりなくなってきたと伺えます。

<改善>

- ・「単位量あたりの大きさ」「割合」など領域別ではなく単元毎に得意・不得意を洗い出し、授業時間以外にも家庭学習や朝の時間を活用して繰り返し復習に取り組みます。

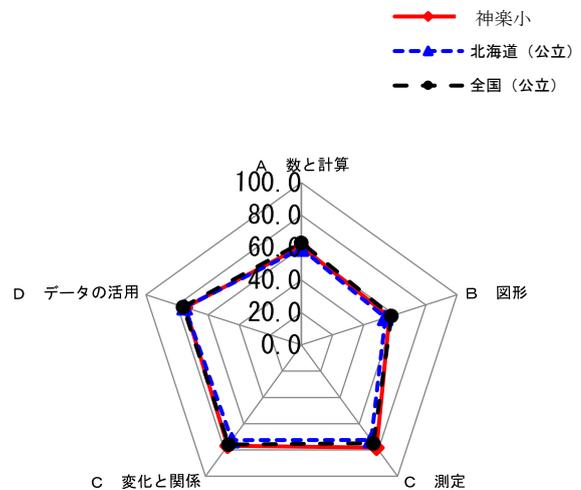
(3) 質問紙

<肯定的な回答が多く、良好と思われる項目内容>

- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- ・携帯電話、スマホやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っている
- ・自分にはよいところがあると思う
- ・将来の夢や目標をもっている



学習指導要領の領域の平均正答率の状況



<肯定的な回答が多く、良好と思われる項目内容>

- ・自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる
- ・自分でやるときめたことは、やり遂げるようにしている
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自ら取り組んでいる
- ・英語の勉強は好き
- ・英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができる

<肯定的な回答が若干少なく、改善が必要と思われる項目内容>

- ・国語の勉強は好き
- ・国語の授業内容はよくわかる
- ・授業時間以外（休み時間、放課後、学校が休みの日）に読書をしている
- ・家庭での学習時間や計画性のある学習
- ・コロナで学校が休校している期間中、規則正しい生活を送っていたか

【家庭では、引き続き望ましい環境づくりをお願いします】

全国的にも全道的にも「基本的な生活習慣や家庭学習環境が身に付いている」「規則や決まりを守ろうとしている」「ものごとに前向きに取り組もうとする」「他の人々のことを考えようとする」児童ほど学力が高いという傾向にあります。また、「読書意欲が高い」児童は読解力もよく伸びています。

よりよい生活習慣や家庭学習習慣を身に付けるためには、次の点について、引き続き家庭でのご協力をお願いします。

- ・ **毎日、決められた時刻に起きたり寝たりといった生活リズムを整える**
- ・ **家庭学習、読書時間の確保**
- ・ **ゲームやスマホ等利用のルールづくり**